

米国株式市場の行方

ポイント① 米主要ハイテク株が総崩れ

今秋に高値を付けた米国株式市場は、直近2カ月の間に大きく下落しています。高値からの下落率は、NYダウで▲9%、ナスダック総合指数で▲15%ほどとなっています。中でも大きく下落しているのがFAANG（フェイスブック、アップル、アマゾン、ネットフリックス、グーグル）と呼ばれているハイテク株群で、20日現在、高値から▲20%～▲35%程度的大幅下落に見舞われています。但し、図1に見られるように、これらの銘柄群は、大幅に上がっていただけに、その反動が出やすい状況にあったと思います。

ポイント② アップルのiPhone販売に陰

このような高値にある状況で、先週来、アップルのiPhoneの売れ行きが減速しているとの観測が、アップルの製造委託先、サプライヤー、販売企業などの決算から浮かび上がり、メディアからも生産縮小が報じられ、アナリストレーティングも引き下げられたことで、アップル株が大幅下落しました。時価総額最大の銘柄が暗いニュースをきっかけに大きく下げたことで、ハイテク株が総崩れになったものと考えています。

ポイント③ 米主要企業の株価は堅調

しかしながら、ハイテク株以外の主要企業を見てみると、図2に見られるように、ユナイテッド・ヘルス、ジョンソン・エンド・ジョンソン、コカ・コーラ、メルクなどは、高値圏に位置しているなど、パフォーマンスは引き続き堅調に推移しています。また、より細かく見ると、FAANG銘柄でも、悪材料が相次いで出たアップル以外の銘柄の20日の値動きは、取引開始頃が最安値でその後、日中を通じて株価は戻り歩調でした。

上がり過ぎたハイテク銘柄の調整が進み、もう少し日柄調整が進めば、米国株式市場も落ち着きを取り戻すと考えています。

図1：米国主要ハイテク株とNYダウの推移

期間：2015年12月31日～2018年11月20日、週次

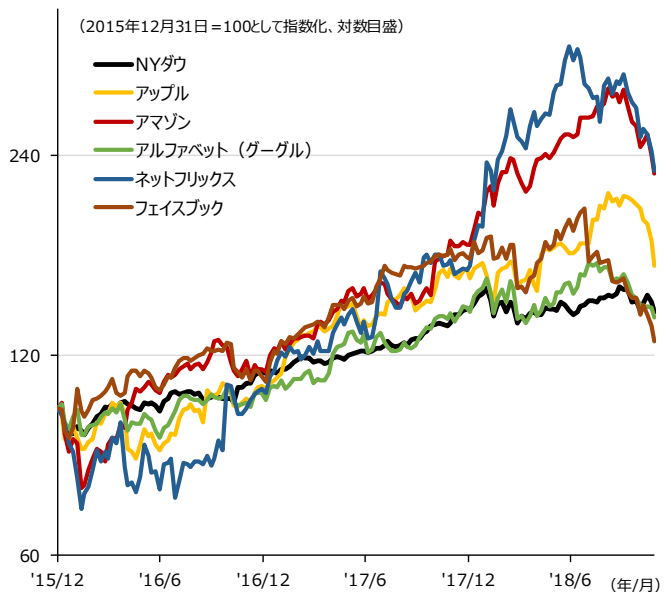
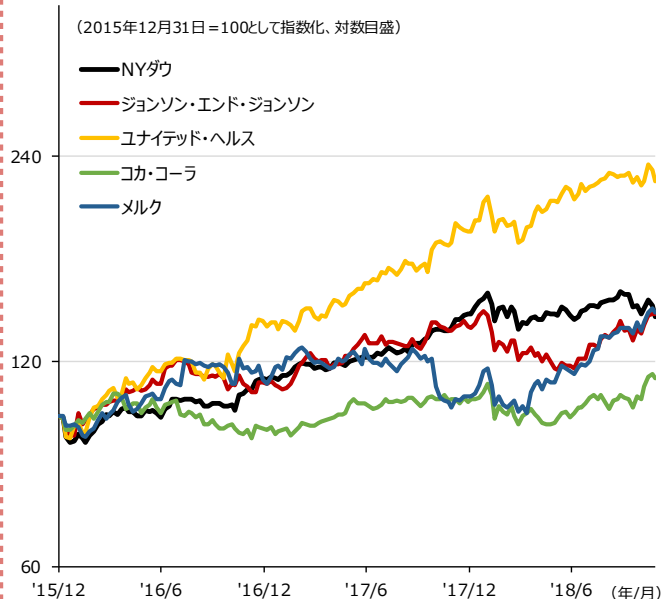


図2：米国主要企業とNYダウの推移

期間：2015年12月31日～2018年11月20日、週次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。